

# 琉球大学学術リポジトリ

[抄録] トマトの生育並びに開花結実に対する育苗期の床土の肥瘠、灌水量及び株間の影響

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 銘苅, 春定 (抄録) メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015156">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015156</a>

## トマトの生育並びに開花結実に対する育苗期の床土の 肥瘠、灌水量及び株間の影響

(齊藤・今野・伊東：園芸学雑誌 3(3):38~48, 1963)

育苗期の温度、日長、光の強さ及び窒素、りん酸、加里の施用量が苗の生育並びに花芽の形成に大きな影響を与えることは以前に報告したので、本報においては、育苗期の管理操作である床土の肥瘠、灌水量、株間等が生育並びに開花、結実に及ぼす影響の仕方について調査した。品種は福寿2号を用い、発芽直後15cm鉢に植え、子葉が充分展開した後処理を開始し、50日間行なった。

床土の肥瘠は慣行法による培養土(標準の床土)を用いた肥沃区、普通の畑土を用いた中肥沃区及び無肥料に近い薄瘠区の3区にし、灌水量は中灌水区(普通程度の標準水量)、多灌水区(中灌水区の約2倍量)、少灌水区(苗が萎凋しない程度に灌水)の3区に分け、株間については処理開始日の3月24日に温床内の株間を最初から9×9cm、6×6cm、及び3×3cmの3通りの区に分けて植え付け、4月23日に各区ともそれぞれ1本おきに間引いて株間が初めの2倍になるようにし、5月13日に90×60cmに定植した。

床土の肥瘠については、床土の肥沃なほど苗の発育旺盛で、花芽の分化が早く、花芽の分化節位が低く、花芽分化数が多く、その発育がすみやかで、開花・収穫期に達するのが早く、収量が多い。灌水量については、灌水量を多くするとやや徒長的な生育を示して、

花芽の形成が若干悪くなり、分化数がわずかながら少なくなるが、分化期、分化節位及び発育は標準灌水区とほとんど変わらない。灌水量を極端に少なくすると、初めから生育は抑えられ、花芽の分化は遅れ、分化数は少なく、発育が遅れ、開花・成熟も遅れ、収量が少ない。株間については、株間が狭いほど初めから軟弱な生育を示して、花芽の分化が遅れ、各花芽は小さく、開花・成熟が遅れ、収量が少ない。

花芽の分化は苗の発育と関連しており、いずれの処理区においても茎の直径が2.1~2.6mmの範囲において第1花房の花芽分化が起っている。花芽の分化節位は、一般に強剛な充実した生育を示すような処理区において低下する傾向がみられた。花芽の形成と体内成分との関係を見ると、花芽の分化が早く起り、分化数を多くした処理、すなわち、肥沃な床土、適当な灌水、十分に広い株間が与えられた場合は、いずれも蛋白質窒素と全糖とがともに多くなっている。すなわち、外観的には生体重/草丈の値が大きく強剛で充実した発育を示し、内部的には蛋白質窒素と全糖とがともに多集積される場合に、花芽の分化が早く起り、分化数が多く、発育も充分に行なわれることが認められた。(抄録・銘荊春定)